

インド ネパールの旅

16/01/2014~02/02/2014

岡田 光祐



自己紹介

僕は姫路市に住む 19 歳の少年であります。この年の 3 月から神奈川県横須賀市にある防衛大学校で 4 年間過ごし、将来は自衛隊として日本の国防に従事する若き学生であります。

16 歳の時にタイに行き、そこで日本では味わえない刺激を受け、以来ずっと、また海外に行きたいと思っていました。今回、進路が早く決まり時間があつたので、このチャンスを逃してはならない、そして行くならインドだ！と思い、今回の旅を決意しました。

インド コルカタ

出発～到着



関西国際空港 11 時発のタイ航空で離陸。タイに 15 時 45 分着。その後乗り継ぎのためタイ国際空港で 6 時間待機。寝たりタイ料理食べたり、スタバで抹茶を飲んだり。

21 時 55 分コルカタへ離陸。モンゴロイド系は僕一人だったので視線をすごく感じながらの快適とはいえない空の旅。インド上空は乱気流が発生しやすいので十分お気を付けて。僕の乗ってる飛行機も揺れまくり、急に轟音とともに急上昇するので一瞬死も覚悟しました。

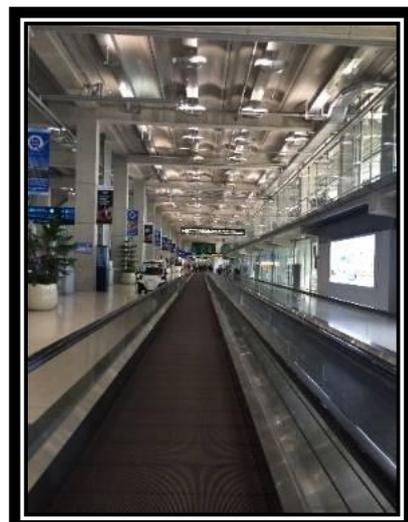
なんとか深夜コルカタ到着。飛行機の窓から外をみても煙やら霧やらでまったく見えません。ヤバイところに来てしまったと内心焦りつつ入国。

現地コーディネーターのカロルさんと空港で待ち合わせ。カロルさんが空港内で待っていてくれるにも関わらず僕は空港のそとで必死にカロルさん探し。(一般人は空港に入れない、カロルさんは政府公認の人物であるので入れる) 30 分ほどさまよった挙句カロルさんが僕を発見！初めての深夜の街での恐怖の時間でした。

ステイ先はカロルさんの両親の家。空港からステイ先に向かう車の中で見た景色は日本とは全く異なり、深夜ということもあって地獄に来たのかと思いました。ハリウッド映画に出てくるような人類の住んでいない忘れ去られた街のように僕の目には映り、どえらいところに来てしまったー！とおもいながら、インドに来たことを後悔していました。

深夜 2 時ごろステイ先到着。その日はすぐに就寝。

こんな感じで僕のインドの旅がスタートしました。



一日の流れ

05:30~06:00	起床、朝食
06:00~06:30	徒歩でバス停にむかう
~07:30頃	バスでマザーハウス到着 そこからボランティア先にバスで移動
09:00~12:00	ボランティア活動
~18:00頃	コルカタ市内散策、バスでステイ先に帰る
~21:00頃	シャワー、仮眠、携帯など
21:00頃~	夕食
21:30~	自由時間、睡眠

食べ物、食事

写真のほうが伝わると思うので写真にします。ステイ先では、日本人の舌に合わせて毎回違う料理がでましたが、基本はカレー、カレー風味です。店で食べる料理もおいしいです。衛生面はわかりません（笑）



危険なのは露店で売っている食べ物です。僕はインド最終日に動物園に行き、そこで10ルピーほどのクリームロールを食べました。何時間後かにはゲリラ（笑）に見舞われ、その後日本に帰国して3日ほどしてようやくおさまりました。2週間近くゲリラに悩まされました。ちなみに一緒に一緒のものを食べた日本人の人は嘔吐にもなったそうです。日本から持って行った正露丸（薬）では全く太刀打ちできません。それほどインドの食べ物は強烈です。



ボランティア活動

僕はダヤダンという障がいのある子どもたちの施設に行きました。だいたい9時くらいに着いて活動が始まります。子どもたちはすでにお風呂から上がって待っています。

20年近くインドに住んで、ダヤダンでボランティアをしている日本人女性の方がいらっしゃいます。その方の指導を仰ぎながら、日本人は他の国のボランティアの方とは別に、子どもたちのリハビリをしました。一緒に活動していた日本人のお兄さんやお姉さんはリハビリのプロや看護師の方だったので不安でいっぱい、よく怒られたりしましたが、最後のほうはだんだん慣れてきました。

だいたい10時30分くらいに30分ほど休憩があります。すごくおいしい紅茶とビスケットがセルフサービスでいただけます。この時間は日本人同士で話したり、他国のボランティアの人たちと談笑しました。国際交流の場になっていました。

11時くらいから子どもたちに昼食を食べさせます。これは他国のボランティアの方と一緒にです。子どもたちは食べるのがゆっくりなのでだいたい12時近くになってしまいます。食べ終わると、子どもたちをそれぞれのベッドまで連れていきます。これでボランティア活動は終了となります。

初めは何していいか全然わかりませんが、積極的に活動しましょう。日本人シスターもいるので質問して行って大丈夫だと思います。シスターの方はみなさんとても親切でした。ボランティアの人は世界中から集まってくるので、数は十分だとも思いました。なので自分から仕事を積極的に見つけていかないと、何もしないまま終わってしまいます。



ホームステイ

僕は現地コーディネーターのCarolさんの両親の家に一週間滞在しました。インドは日本みたいな一軒家はなく、集合住宅みたいなところにみんな住んでいます。おじいちゃん、おばあちゃん、あと孫がいました。おじいちゃんは体が不自由なので、ずっとベッドで生活していました。触れ合う機会が少なかったのですが、たまにおじいちゃんの部屋をのぞくと、笑顔で手を振ってくれました。おばあちゃんはとても親切で、すごく気を遣ってくれました。家に帰ると紅茶とおやつをだしてくれたり、朝早いのに僕のために朝食をつくってくれたり、毎日外まで見送りもしてくれました。

インドの人々は夜遅くまで起きています。夕食を毎日だいたい 11 時くらいに食べ始めます。おばあちゃんは日本人はもっと早く夕食を食べると知っているので、僕だけ毎日 9 時くらいに食べていました。その間おばあちゃんは隣に座って話し相手になってくれたり、おかわりなどをすぐに入れてくれたりしました。

さすがはCarolさんの両親の家でした。(笑) Wi-Fi がつながってたり、シャワーでお湯が出たり、お手伝いさんが 2 人くらいいて僕の分まで洗濯してくれたり。他の日本人ボランティアの方にこのことを話すと、みんな羨ましがっていました。大当たりでした。

最終日にCarolさんの親戚の結婚式があったので参加させてもらいました。その時あたりから昼動物園で食べた怪しい物体のせいで腹の調子は最悪でした。



市内観光・自由行動

出発する前は、一人で大丈夫かなと不安がありましたが、実際行ってみるとたくさんの日本人の方がいました。同じCECの方も3人いて、ほかに世界一周している人や、マザーハウスで何か月もボランティアしている人などたくさんの日本人の方とインドで知り合えました。

特にCECの方3人とはステイ先が近かったり、ボランティア先が一緒だったので、朝のバスから昼食、コルカタ市内散策など、ずっと一緒に行動していました。

インドでは日本と違い、バス停がありません。人が群がっているところがバス停です。そのためバスに乗るのも一苦勞でした。3人の方がとても頼もしくて付いていただけでしたが、おかげで行動範囲が広がりました。

コルカタの中心街であるサダルストリートをあるいたり、動物園に行ったり、歴史的建造物、ショッピングモールに行ったりしました。

また、半日観光でヴィクトリア寺院やジャイナ教の寺院、ガンジス川など連れていってもらいました。



インドの旅を終えて

コルカタに着いて深夜の街を見たときは、なんでこんなところに来てしまったんだ！と後悔しましたが、1週間はあっという間に終わってしまい、もっとコルカタにいたいという気持ちに変わっていました。とにかく1週間は短すぎます！インドを堪能するのなら、少なくとも2週間はいるとおもいます。

それでも僕はこの1週間で、インドの人々の優しさやたくましさ、陽気さ、日本の生活がどれほど便利で贅沢か、インドの抱える問題なども自分なりに感じる事ができました。

バスや地下鉄で降りる場所に困っていたりすると、必ずとっていいほど誰かが声をかけて助けてくれ、彼らが座席を立つときは、肩をたたいて、席どうぞ と声をかけてくれました。日本人という握手を求めてきました。話すとても親切で気さくですが、視線は強烈に感じます。あまりアジア人を見ないのか、興味や憧れ、お金を持っていると思うのかわかりませんが、とにかく街をあるけば見られていると感じました。女性だったら初めは少し怖いと感じるかもしれません。

世界の中心がインドになる日が来る という人もたくさんいますが、少なくとも日本のような国になるにはまだまだかかるかと個人的に思いました。貧困が溢れているのは当然のこと、平気で道にゴミを捨てたり唾を吐いたりしていました。野良犬の多さにも驚きました。でも一番印象的だったのは、車のクラクションです。町中に鳴り響いています。おそらく一回車に乗れば、運転手は100回近く鳴らすでしょう。渋滞で鳴らしても意味がないときや、危険がなくても鳴らし続けます（笑）交通規制が無茶苦茶でした。

そんな感じで、日本では考えられないことが次から次へと起こり、言葉にならないほど衝撃を受けたり、ツッコんだり、ツッコミも忘れて笑うしかなかったり、いろんな状況に出くわして刺激を受け、たくさん吸収でき、また考えさせられました。

インドを旅立つお別れのとき、ステイ先のおばあちゃんが僕の頭に手をおいて、目をつぶり、お祈りをしてくれました。その優しさに僕は涙が出そうになりました。

インドに滞在したのがたった1週間だったので、次はもうちょっと長くいたいです。そしてステイ先のおじいちゃん、おばあちゃんの元気な姿を見たいと思います。





ネパール

出発～到着



インド1週間を終えてネパールに向かいました。エアインディアで予定通りかなり遅れて到着。ネパールに近づくにつれて飛行機からの眺めも雄大な山脈になっていました。

さて、今回ホームステイでお世話になる Chyawan さんは、去年の冬に日本で一度会っていました。

そのときは姫路城を案内しました。なので再会できる喜びを胸にネパールへと降り立ちました。

ネパール空港に着くとまず入国カードとビザの手続きをします。ビザは 25 ドル必要で、僕はドルを持っていなかったなので円で 3000 円ほど払いました。

インド同様に一般人は空港に入れません。Chyawan さんは外で待っていてくれました。久しぶりの再会に喜び、そしてステイ先に向かいました。17 時ごろでした。インドに比べると空気がきれいで街の喧騒や汚さもまじりだつたので、少しほっとしました。だんだんと道がせまくなって、ステイ先に近づいていくにつれ、歴史を感じる街並みへと変わっていきました。お寺や神社がたくさんあり、世界遺産の前もさりげなく通過していきました。インドもそうでしたが、バイクの交通量が半端なく多かったです。誇らしいことに、ほとんどがホンダなどの日本製でした。車窓の景色にインドとは違う安心感に浸りながらステイ先に到着しました。親戚も遊びに来ていたらしくて厚い歓迎をうけました。ちょっと落ち着いて Chyawan さんとネパールティーを飲みました。むちゃくちゃおいしくて、衝撃をうけました。

そのあと僕の部屋に娘の Chesta と親戚の女の子が遊びにきてくれました。そこで僕はショックをうけました。8 歳ぐらいのこどもでも英語がペラペラだったのです。(笑) 初めは 2 人ともはずかしそうにしてあまり話さなかったのですが、だんだんと調子づいて、終いには理解できないほどペラペラしゃべっていました。

明日から学校に行って英語で日本語を教えるのに、生徒は英語ペラペラで先生の自分は…とおもい急に自信がなくなりました。(笑)

ネパールはそんな感じで始まりました。(笑)



一日の流れ

06:45～09:30	起床、朝食、洗濯、授業の準備
09:30～10:00	登校（徒歩）
10:00～13:00	学校でボランティア
13:00～15:00	昼食
15:00～16:00	Conversation または市内観光
～19:00	自由時間または市内観光
19:00～21:00 頃	夕食、テレビ、おしゃべり
21:00 頃	睡眠

食事

写真で味を伝えたいとおもいます（笑）ネパールの夕食はきまってダルバートでした。おすすめのランチの店は Turnig Point という Chyawan さんの知人の店です！日本食の店に行ったときは日本の米のおいしさに改めて気づかされました。

ステイ先での夕食（左）と朝食（右）



ネパールの伝統的料理





ボランティア活動

ネパールでのボランティア活動は学校で日本語を教えるというものでした。前日に学生たちが英語ペラペラという衝撃の事実を身をもって感じていたので、初日はとても不安でした。でも生徒たちに会ったとき、彼らは日本語で「先生、こんにちは〜」「は〜い、先生〜」とみんながとても明るい感じで声をかけてくれたのでとても和まされました。とにかく生徒たちは明るいです！元気が有り余ってます！男女関係なくとてもフレンドリーです！

休み時間でも遊ぼう！と誘ってくれたり、集団になって話しかけてくれたり。ネパールの人々のあたたかさに改めて気づかされました。

授業内容はといえば…試行錯誤でした。僕はだいたい4年生から8年生まで授業をしました。クラスはそれぞれ10人以下で、初めはなんかうまくいけそうな気がしましたが、日本の常識はここでも通用しませんでした。

とにかく元気すぎて、日本人が授業してくれる となるととてもテンションが上がります。そして彼らは羽目を外します。(笑) (ネパールの先生はとても厳しい！体罰は普通で、生徒たちは先生達を恐れている笑)

平仮名、カタカナを紹介したり、曜日、数字の教え方(100まで)、日本語の歌を彼らは知っていたのでその歌の英訳をしたりしました。熱心に聞いてくれるクラスもあれば、男の子は隠れてカードゲームをしていたりするクラスもありました。みんなは楽しいことを期待していたので、授業の初めで復習をして、終わりはゲームをしました。あっち向いてほいとか、たち相撲をしたり、長縄をしたりしました。

困ったのはみんなルールを守らないことです笑 勝ちたいという思いが強いのか、男の子は特に守りません。女の子も負けて自分の番がもう来なくなると泣いてしまったりして、とても困りました。

あと、Facebook をしている生徒が多く、初日からIDを聞かれました。笑 日本に帰ってからも連絡をとっています。

僕は今まで人に何かを教えるという経験をしたことがありませんでしたが、なんとか乗り越えることができました。生徒たちの優しさのおかげです。人に何かを教える難しさと、伝わったときの喜びを感じることが出来ました。そしてまた彼らに会いに行きたいとおもいます。



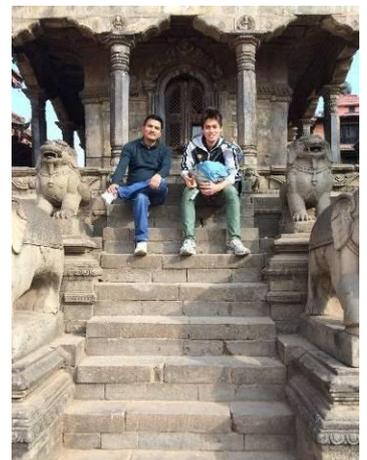
ホームステイ

Chywan さんの家に 1 週間滞在しました。ネパールもインド同様、一軒家はなく、集合住宅みたいなところにみんな住んでいます。一見お寺かな？と思うような建築物です。ネパールでは 1 日 12 時間の計画停電があります。なので生活が不便なのは言うまでもありません。Chywan さんいわくネパールの生活は日本の 50 年前の生活のようらしいです。また水が非常に大切に扱われています。ネパールは電力の大部分を水力発電に頼っています。またマネジメントが上手くできていないので水不足が深刻らしいです。水自体とても冷たく、ネパールの夜は日本並に寒かったのでシャワーを浴びようという気になりませんでした。

Chywan さんとは、夜散歩に出かけていろいろネパールのことを教えてくれたり、ぼーっとしたり、日本のことを熱く語ったりしました。第二の父のような存在です。

Chywan さんの奥さんも少し日本語が話せます。毎朝起こしてくれて、おいしい朝食、夕食をつくってくれました。毎回超大盛りで、おかわりも頂きました（笑）また日本の綾取りを教えてあげました。僕はかなり得意だったのですがかなり忘れていて、途中までしか教えられませんでした。でもマジックみたいだと喜んでくれました。Chywan さんの娘さんたちもすごくフレンドリーでした。妹の Chesta はとてもシャイでかわいらしかったです。一緒にボールで遊んだり、物さがしゲーム？とかしました。8 歳なのでまだまだ子どもで妹みたいな存在でした。姉の Chetana はとても明るく表情が豊かです。英語がペラペラすぎてショックを与えられました（笑）One direction の話とかいろいろな話をしたりしました。スキがあればちょっかいをだしてきたりして、いいコンビでした（笑）

とにかく不便な生活の中でもみんな明るくのんびりと過ごしていました。停電でテレビが見れなくてもお喋りで盛り上がりたり、日本人にはまねできない寛容さみたいなのがありました。



市内観光・自由時間など

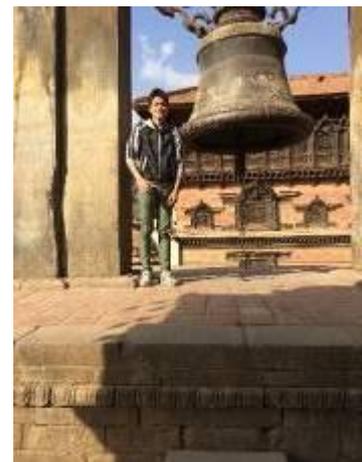
毎日学校でのボランティア活動が終わって昼食をどこかの店で食べ終わると、Chywan さんの事務所に行ってラビンさんと会話教室をしました。ラビンさんが英語でネパールの歴史、独自の文化やカレンダーなどわかりやすく教えてくれました。たくさん写真などを使って説明してくれ、質問にもわかりやすく答えてくれました。

また土曜日（ネパールでは祝日）にラビンさんと3時間ほど歩いて観光しました。ラビンさんの話すネパールの歴史はとても興味深く、どんどん質問できました。

また会話教室のあと3時ごろから同じ事務所のパシユタさんと半日観光を2度行きました。世界遺産に連れて行ってもらったり丘に登ったりしました。歳が近いこともあり音楽や映画の話でも盛り上がりました。バスは一人で乗るのが至難の業だったのでとても頼もしかったです。

だいたいステイ先に帰るのが早くて4時とか5時でした。夕食まで2、3時間近くあるときは同じアパートの子どもたちとサッカーをしたり、バドミントンをしたりしました。みんなとても人懐っこくて元気もりもりでした。暗くなり始めると遊びをやめてたき火をしました。木や紙などを集めてきて燃やす姿はとても頼もしく、日本では有り得ないな—と思いました。

現地ではよくネパール人に間違えられました。おそらく10人以上に間違えられたと思います（笑）だいたい初めはネパール語で話しかけてきて、日本人です！ というと オー ネパール人だと思ったー！ のパターンでした。（笑）



ネパールの旅を終えて

ネパールはとにかくのんびりしていました。インドと隣同士なのに正反対の雰囲気でした。

インドでは日本人がたくさんいたのでみなさんについていく感じでしたが、ネパールでは完全に一人でした。なので現地の人と直接触れ合う機会もたくさんありました。

Chyawanさんはもちろん、家族のみんな、事務所で働いているラビンさん、パリシュタさん、学校の先生や生徒たち、店のひと、みんな親切で明るく、1週間があつという間でした。

ネパールはいろいろな問題を抱えています。工業化をすすめる中でうまく伝統を残すことができるか、世界遺産がたくさんあるにも関わらずしっかりと管理がされていない、水やゴミ、若者の就職難。

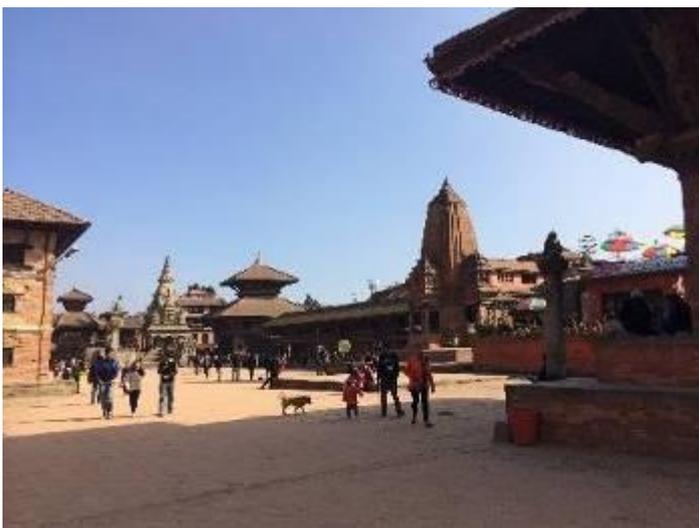
僕が出会えた人たちはこれからどんな人生が待っているんだろう？と日本に帰ってきてネパールとは全く違う生活をしていると、よくそんなことを考えます。

近所の子どもたちがみんな集まってサッカーしたり、火をおこして住民たちが温まったり、ぼろぼろのバスの中で密着し合いながらも談笑できたり譲り合ったり。日本は物質的なすべてのことで勝っていても、なんか寂しい気がしました。

ネパールで僕はのんびりすることも学びました。ステイ先の近くには世界遺産のダルバール広場があって、夜に3回ほど行きました。15分ほどただぼーっとして自分や家族、友人や旅先で出会った人たちのことを考えたり思い出に浸ったりします。自分を見つめなおすことができ、さっぱりした気分になりました。そんな経験をしたからか、日本に帰ってきて、以前は面倒だった犬の散歩もなんだかとてものんびり、ぼーっと考えながらするようになり、自分と向き合える貴重な時間になりました（笑）

この旅は自分の短い人生のなかでもっとも貴重な時間になりました。すばらしい経験をさせてくれたCECの皆様、お金を出してくれた両親、僕と出会ってくれたインド、ネパールの人たち、本当にありがとうございました。僕はこんな素晴らしい経験を通じて成長できたことは言うまでもありません。しかし目にみえる成長として現れるのはまだかもしれませんが、必ず世のため人のためになれる人間になれるよう努力していきます。

本当にありがとうございました。CECの大吉さん、インドで出会えたみなさん、ネパールのみなさん、必ずまたお会いしましょう！



Fin. March 2014